

素直にいいあらわしているのであり、このように話せることが友だちとのつながりができていくためにも大切なことであると思う。したがって幼児のなげなく話していると思われる話しことばの一つ一つをよく聞きとり、何をいいあらわそうとしているかということを理解できるようにしなければならない。

友だちの遊んでいるのを見て、自分もその遊具を使って遊びたいと思ったとき「まぜて」という仲間入りのことばを使っている。事例Ⅱ(W男の場合とH男の場合)に見られるように仲間入りをしようとして「まぜて」といつてかかわっているが、相手の幼児には「まぜて」といつている幼児が自分と同じことをやりたがっていることを直観的に感じて何かの理由(「ほうちょうがない」「男の子はあかん」など)をいつてことわっているが、「まぜて」という言葉の中に含まれている「……をして遊びたい」という気持ちを更に強くいいあらわすとき、相手もその強い気持ちを感しとり、「……やったら」「……なら」というように自分のやりたい気持ちを確認し、また自分と他人とがちがうのだということをはっきりさせて、相手のやることもきめようとしている。すなわちたんに、まぜてほしいことを「まぜて」ということばで話すだけでなく、その言葉の背後に積極的にやりたいという気持ちを強くもち、その気持ちを強くあらわそうと努力するとき、相手にもその心が伝わり、自分と他人のちがいが一層はつきりして、その時点でつながりが、成立するのではないかとも思われる。このように考えてくると、友だちと一緒に遊ぶ場合たんに仲間入りのことばとして「まぜて」といつたか?と「もう一度まぜて」といつてきたら」など「まぜて」ということばの使い方を指導するのではなく、なにをして遊びたいと思いつているかということをはかめねばならないと思う。

(注 20 ページ)

幼児の教育 第七十三巻 第六号

六月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年五月二十五日印刷

昭和四十九日六月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

© 本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします